

次号予告

特集 整形外科

- 五十肩の病態生理……………信原病院 信原 克哉
 肩関節可動域測定における留意点……………岩手リハビリ学院 矢崎 潔
 痛みに対する経路、経穴表面通電法……………所沢整外 朝 溪 清 児
 下腿骨折の functional bracing
 (機能的装具療法)……………高島平整外 荻 島 秀 男
 人工骨頭ならびに股関節全置換術
 の適応と問題点……………筑波大整外 進 藤 裕 幸
 と び ら そばにいつもいる者……………信愛デイケアセンター 岩 崎 テル子
 講 座 社会リハビリテーション
 3. 所得保障と就労……………日本福祉大学 児 島 美都子
 心理学シリーズⅡ 知覚と認知
 3. 知覚の発達……………東 大 鳥 居 修 晃
 プログレス がん研究の最前線……………東京都老人総合研 太 田 邦 夫
 あんてな PT・OT の需給計画……………佐々木研究所 佐々木 智 也
 雑誌レビュー AJOT (1983年版) まとめ……………社会医学技術学院 山 口 昌 夫
 資 料 第19回 PT・OT 国家試験問題一模範解答 (Ⅳ)

編集後記

今回の日本リハビリ医学会で、ホームケア、地域ケアがシンポジウムやセミナーで採り上げられた。狭い治療中心の医療施設主義から、医療と保健を総合的に統合して、在宅、地域へと、方法も cure から care へと流れは確実に変わってきたようだ。

老人保健法は制度として、各市町村にホーム・ケア、地域ケアの実施を法的に義務づけさせた。そして、40 歳以上の住民を対象に、予防から治療、リハビリテーションまでの一貫した保健サービスを総合的に行うことであり、その費用を公平に国民が負担することとなった。

本特集では、“老人保健法のかかえる問題点”を小山秀夫氏に指摘して戴き、いくつかの問題点が浮きぼりにされた。

土居眞氏には、“老人保健事業の将来展望”について書いて戴いた。高齢化社会を迎えて、地域リハビリ活動の意義とリハビリのもつ基本理念が社会のなかで広く滲透する必要性について強調されている。

保健婦の内田恵美子氏は、東京のベッドタウンである人口8万余の富士見市において、昭和53年以來の老人保健事業への準備と実践にとり組んできた体験をとおして、保健婦の役割についてまとめて戴いた。

井口恭一、松下起士両氏は、PT・OT の立場から執筆して戴いた。それぞれ現場における経験のなかから問題を提起しておられる。

講座は、心理学シリーズⅡ知覚と認知2と社会リハビリテーション2を、それぞれ大山正氏と板山賢治氏に書いて戴いた。初山泰弘氏にはあんてな欄で、義肢装具士法の動向に触れて戴いた。冷静な眼でこの身分法の行方を見守ることが大事だと思う。

梅雨も明けて、本格的な夏シーズンを迎えておりますが、暑気に負けないよう、ゆったりとして過ごしたいと願うのは筆者一人ではないと思います。

(松村 秩)

<編集顧問>

天 児 民 和
 九州労災病院名誉院長
 五 味 重 春
 埼玉県障害者リハビリセンター所長
 砂 原 茂 一
 国立療養所東京病院名誉院長
 津 山 直 一
 国立身体障害者リハビリセンター病院長
 (五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上 田 敏
 東大リハビリ部
 荻 島 秀 男
 ペインリハビリテーションクリニック 高島平整 整形外科
 大喜多 潤
 兵庫県リハビリセンター
 寺 山 久美子
 都心身障害者センター
 富 岡 詔 子
 信州大学医療技術短大
 奈 良 勲
 金沢大学医療技術短大
 福 屋 靖 子
 筑波大学
 松 村 秩
 都養育院リハビリ部

<編集同人>

池 松 洋 子
 伊 東 元
 岩 崎 テル子
 宇都宮 初 夫
 金子 誠 喜
 鎌 倉 矩 子
 木 村 信 子
 菊 地 延 子
 小 嶋 裕
 斎 藤 みち子
 鈴 木 明 子
 高 橋 正 明
 田 口 順 子
 橋 元 隆
 古 川 宏
 松 沢 博
 宮 崎 和 子
 宮 前 珠 子
 山 田 貞 雄
 矢 谷 令 子

(担当 細田・西塚)